



共和病院の盆踊り大会

桜クリニック院長就任のご挨拶

桜クリニック 院長
今枝 美穂

令和6年4月より桜クリニックの院長に就任いたしました今枝美穂と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。簡単に自己紹介をさせていただきます。

生まれと育ちは南国土佐の高知県です。過疎化、高齢化が進む地方都市ですが、海と山の幸に恵まれた自然が豊かで人情に厚いふるさとです。最近では朝ドラの“らんまん”で注目されたと思います。朝ドラ効果で牧野植物園をはじめとして、各地で観光客がずいぶん増えたと聞いております。ご縁あって愛知県民となり、はや29年となりました。共和病院は私が愛知県に参りまして、最初に赴任させていただいた病院です。平成10年4月からは桜クリニックに勤務となり、開院当初より現在まで長年にわたってお世話になっております。子どもの体調がすぐれず、やむなくクリニックに連れてきてご迷惑をおかけしたこと等もありましたが、榎本名誉院長をはじめ多くの先生方、スタッフの皆様のご理解と支えのおかげで仕事を続けることができました。大変感謝しております。これからは共和会のために少しでもご恩返しができるかと思っております。

さて、桜クリニックもついに令和6年1月から電子カルテが導入されました。電子カルテの便利さは誰もが認めるところですが、口述的な筆記が多い精神科臨床では診察時間中に記録をとり終えることは実際なかなか

大変です。まだ不慣れなせいもありますが、紙カルテの方がページを戻って追記したり、家族歴を詳しく聴いたり等がスムーズにできたように思います。ペンを持って書く方が記憶にも残りやすいでしょうか。また、診療していると“主訴は何だったろう”など紙カルテの初診時の記録を確認したい時があります。そのため最近、時間が許す限り、初診時記録のサマリーのポイントを電子カルテに書き写すようにしています。特に、先達の先生方が書かれたサマリーがこのカルテの移行に伴って失われてしまうのはとても残念に思います。当時の診断や治療の方向性についての臨場感あふれるコメントはかけがえのないものであり、後々の主治医にとっても大変参考になります。笠原名誉院長は、“初診の大切さ”を述べておられます。桜クリニックには引き継いで診させていただいている患者様が少なくないため、大切な初診の記録もこの移行期において可能な範囲で残していければと思っております。

笠原先生、榎本先生の後を継いでのご責務は重く過分ではありますが、当院の“ゆとりある空間でゆっくりにお話を聞く”というモットーに沿いながらよりよい医療を目指して精一杯努力する所存ですので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。





日本医療機能評価機構
認定シンボルマーク

TOPICS・EVENT

かいえんたい

認知症ケアチーム（快援隊）

スタッフそれぞれが認知症の知識を深め共に考えるために

快援隊は、認知症ケアをよりよくしていくために活動する、多職種からなるチームです。入院している理由がわからず、不安な思いでいる認知症の方々が、少しでも御本人らしく過ごせるようにと私たち快援隊は活動を始め、発足して3年目を迎えました。2024年度は快援隊メンバーに医師、薬剤師、理学療法士が加わり、さらに専門性を活かした活動ができるようになりました。当院も高齢社会の波をうけ、認知症高齢者様の入院が増えているように感じています。現在、快援隊メンバーが、各病棟を毎月ラウンドしており、病棟スタッフとともに、認知症の方への関わり方を一緒に検討しています。2年間活動するなかで、認知症の方が本人らしく入院生活を送るためには、日々入院生活を共にする各病棟スタッフの関わりが鍵になると改めて感じました。

昨年度は院内の認知症患者様に関わる様々な職員に向けて、認知症対応力の向上を目的に研修動画を6本作成しました。「何度も同じ

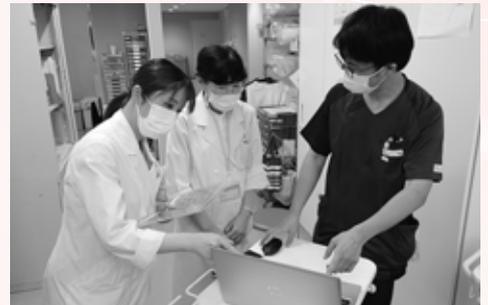
ことを言われて困ったとき」「安全のために一人で立たないでほしいのに立ち上がってしまうとき」など、支援者が対応に悩む場面をテーマにして快援隊メンバー自らが出演し、動画撮影しました。各個人の働き方に合わせて勤務時間内のすき間時間で観ることができる長さや内容にしました。多くの方から好評をいただき、とても嬉しく思っています。

今後も、認知症患者様の入院生活が少しでも快適に、そして本人らしく過ごすことができる関わりを病棟スタッフの皆さんと一緒に考えていきたいです。また、新たな研修動画も企画中です。お楽しみに。

快援隊 宮崎 緑



多職種によるミーティング



病棟ラウンドの様子

当法人職員のスキルアップに向けた 国家資格及び認定資格の合格者を紹介します

精神保健福祉士	村瀬 舞（地域ケア課）	認知症ケア専門士	稲垣 真弓（すずらんの里）
介護支援専門員	竹内 勇人（地域ケア課）	強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)	平松 優子（すずらんの里）
診療情報管理士	三鬼 ルミ子（連携室）	日本栄養治療学会NST 専門療法士	木谷 智恵（薬剤課）
メンタルケアワーカー	森藤 苗美（A-4病棟）	日本精神科医学会認定栄養士	加藤 利絵（栄養課）
認知症介護実践者研修・小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修	大脇 俊介（れんげ草）	公認心理師実習指導者	飯田 愛（臨床心理科）

共和病院では、外来～入院～退院を通して、様々な医療技術職によるサポートを行なっております。
毎号それぞれの職種を紹介しています。

栄養課

現在4名の管理栄養士が在籍しています。私たちの仕事は、主に「給食管理」と「栄養管理」です。

「給食管理」では、入院患者様、施設利用者様・入所者様、職員の皆様に、安心安全で美味しい食事をお届けすることが仕事です。共和会では、厨房業務は株式会社LEOCに委託しています。総勢29名のLEOC職員のみなさんと1日3食、365日お食事を提供しています。給食に関わる委員会、アンケート等から抽出された皆様の声を参考に、気候・衛生面等に考慮し、より喜んで楽しんで頂ける食事提供を目指し、日々奮闘しています。

「栄養管理」では、病棟・外来・通所リハビリの方を中心に患者様の栄養状態の把握・検討・改善提案やご本人及びご家族様へ向けた栄養指導を行います。栄養サポートチーム（NST）の一員として、様々な職種の方と情報共有しながら、患者様にとって何が大切なのかを見極め、必要な栄養を確保してより健康に過ごして頂けるよう課内で検討を重ね、ご本人様や関係者へ提

案するよう心掛けています。

「食べること」は生きること。生きていく上で避けて通れない栄養に関わることの重要性をしっかりと受け止め、栄養管理の専門家として誰からも頼られる相談しやすい課となれるよう努めて参ります。

*入院中、外来通院中の栄養指導・相談も随時行っております。ご希望の際は主治医にご相談ください。

管理栄養士 加藤 利絵



LEOCさんと共に

ゆずの里、Moff導入しました!!

Moffってなんだ?と思われるですね。Moffとは、モーションセンサーを活用した総合的な機能訓練支援サービスを提供するためのお助けツールです。このシステムを導入することにより、画面と音楽に合わせて小集団での機能訓練が可能となり、タブレット（モフトレアプリ）とモフバンド（センサー）で動かした体の可動域や回数等を自動で記録でき、利用者様に訓練状況を一目で分かりやすくレポートとしてお伝えすることができます。

今年度当初まで、ゆずの里利用者様の機能訓練は、完全個別で実施していました。完全個別のメリットはもちろん沢山あるのですが、モフバンドを使う事により手足を上げた可動域の角度等回数以外の、人によ



る目視で確認できない事も測定可能となりました。3カ月に1回実施している体力測定も、立ち上がり時間や旋回時間など人の手によるストップウォッチ測定ではできない、細かな記録を測定可能です。

小集団で画面と音楽に合わせて楽しく機能訓練を行いながらも、各利用者様にとって必要な個別機能訓練も残しつつ良い部分をハイブリッドし、今まで以上のより良いサービスをご提供できたらと思っています。

デイサービスセンター ゆずの里責任者 石川 雅也

編集後記



今年は7月からすでに猛暑となっていますが、私自身は毎度夏バテとは無縁で、つつい冷たい物が欲しくなり、そのまま食欲の秋に突入します。冷たい食べ物の摂りすぎは、胃腸の働きを悪くすると聞きますが、暑いときのアイスクリームは別格に魅力的!と思っています。

連日の猛暑にはうんざりですが、健康に気をつけつつ、夏ならではの楽しみも満喫しながら乗り切りたいと思います。(スポーツの秋は多分来ません...)

広報委員会 奥山 晶子



共和会理念

『優しい医療・楽しい職場』

私たちが目指す『優しい医療』とは

- まごころをこめてやすらぎと癒しの提供
- あなたの安心と希望ある地域生活の支援
- それぞれの専門性を活かした
最良の医療・介護サービスの提供

私たちが目指す『楽しい職場』とは

- 職員のチームワークと創造性が
高められる職場
- 職員のレベルアップと仕事の充実が
感じられる職場
- 職員の満足が皆様へ反映される職場

基本方針

～当院をご利用の皆様へ～

わたしたちは、利用者の皆様が安全かつ納得のいく医療を受けていただくことを目指し、それぞれの尊厳を大切に、思いやりのある医療を提供します。さらに、地域関係機関との密接な関係を保ち、地域の医療水準の向上に努めます。

1. あなたは、個人的な背景の違いや病気の性質などにかかわらず、必要な医療を受けることができます。
2. あなたは、医療の内容、その危険性および回復の可能性についてあなたが理解できる言葉で説明を受け、それを十分納得して同意したのちに、医療を受けることができます。ただし、必要に応じて主治医の判断によってご家族、代理の方にお話をする場合もあります。
3. あなたは、今受けている治療、処置、検査、看護・介護、食事その他についてご自分の希望を申し出ることができます。また、他の医療機関に転院したい場合は、必要な情報を提供致します。
4. あなたの医療上の個人情報は保護されます。
5. あなたの社会でよりよい生活が提供されるよう、地域関係機関との連携を図ります。



特定医療法人 共和会
共和病院

愛知県大府市梶田町2-123

診療科目

内科・消化器内科・呼吸器内科・脳神経内科
精神科・心療内科・循環器内科・放射線科
リハビリテーション科・歯科

TEL.0562-46-2222(代)
URL <http://www.kyowa.or.jp/>

おもいやり共和のキラキラチアナイト

100回を迎えました

8年前、当法人の山本理事長から当法人でラジオ番組を持ったらどうかという提案を受け、パーソナリティーをお受けしました。私にできるだろうか？そんな不安もありましたが、先日100回記念を迎えることができました。ご出演いただいた皆様方には心から感謝申し上げます。ゲスト探しもとても楽しく、地域活動していく中で、きらりと光る方を見つけてはお声掛けさせていただいています。ラジオ放送に向けての打ち合わせや放送内での会話を通じて、その方たちをより深く知り発信できることの喜びを感じています。ご出演いただいた方の中には、終末期に緩和治療を受けながらラジオ出演して下さった看護部長さんもみえ、放送の音源は私にとりまして一生の宝物であると感じております。また、お聞きいただいている方の中には、当院の外来患者さんもおみえになり、「松下さんのラジオ好きだよ。だって、あんなにパーソナリティーが囁む放送ないもの」とお声掛けいただきます。思い返せば、私のコンディションの問題でパーソナリティーを終了しようと思ったこともありましたが、続けてきてよかったと今は思っています。

まずは、目指すは150回。さらに皆様にエールを送れるような番組を目指していきたいと思えます。

共和病院 副院長 松下 直美



100回記念 山本理事長と共に

★ラジオ番組★

毎月 第2月曜日19:00～19:30

MID-FM 76.1

ラジオパーソナリティー
共和病院 副院長 松下 直美

こころの病を持たれている方をはじめとする皆さまに
温かいメッセージをお送りします。是非お聞かせください。

おもいやり共和の
キラキラチアナイト



当院HPから過去の放送分も聴くことができます。

お知らせ

10月20日(日) 第13回 共和病院文化祭「てんてん祭り」を開催します。
今年は初の日曜日開催となります！
※詳細が決まりましたらHP等でお知らせします。